

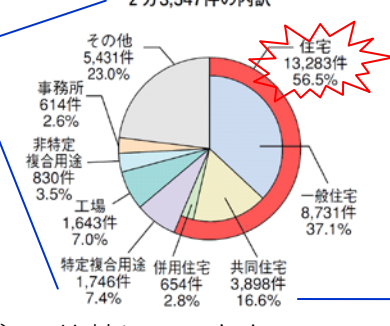


平成19年(1月~9月)における火災の概要(概数)

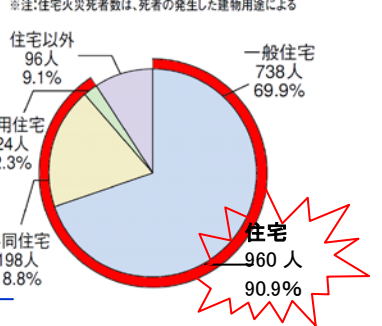
火災種別火災件数

種別	件数	構成比(%)	前年同期比	増減数(%)
建物火災	23,547	56.1%	▲150	-0.6%
車両火災	4,377	10.4%	▲277	-6.0%
林野火災	1,831	4.4%	492	+36.7%
船舶火災	94	0.2%	18	+23.7%
航空機火災	4	0.0%	3	+300.0%
その他火災	12,156	28.9%	1,259	+11.6%
総出火件数	42,009	100.0%	1,345	+3.3%

建物火災の出火件数 2万3,547件の内訳



建物火災の死者1,056人の内訳



※前年比較数字は、前年同期(1~9月)で比較しています

◆総出火件数は4万2,009件、前年同期比1,345件の増加

総出火件数は、前年より増加しています。建物火災は、ほぼ前年並みですが、林野火災が大幅に増えています。消防庁は林野庁と共同で、『山火事は 地球の未来も 燃やします』の統一標語のもと、山火事の予防を呼びかけています。建物火災のうち、約6割が住宅で、工場・事務所など仕事場での火災も2割あります。

◆火災による死者は1,459人で、103人減少、負傷者は64人の減少

住宅火災による死者は960人(放火自殺者等を除くと809人で、前年より52人減少。)で、住宅火災による死者(放火自殺者等を除く。)の約6割が高齢者

火災により亡くなられた方の9割が住宅火災によるものです。放火自殺者等を除いた統計では、809人で前年より64人減少していますが、平成15年(1~9月)の752人、平成16年(1~9月)の770人と比較しますと、多くの方が犠牲になられています。中でもお年寄りが479人と6割を占めます。また、亡くなられる経過については、6割が「逃げ遅れ」となっています。

◆出火原因の第1位は「放火」、続いて「こんろ」

出火原因は、「放火」4,847件(11.5%)、「こんろ」4,554件(10.8%)、「たばこ」4,430件(10.5%)、「放火の疑い」3,567件(8.5%)で、全体の2割は「放火+放火の疑い」です。

平成20年春季全国火災予防運動 H20年3月1日~3月7日



平成20年3月1日(土)から7日(金)までの7日間、平成20年春季全国火災予防運動が実施されます。平成19年度全国統一防火標語『火は見てるあなたが離れるその時を』です。冬から春にかけて、山では枯葉や枯草が多くなることに加え、空気の乾燥や季節風あるいはフェーン現象などの気象条件等から、山火事発生危険性が高い時期となり、同時期に「全国山火事予防運動」も実施されます。

平成19年1~9月の火災データからもわかりますように、ポイントは、「住宅火災」「お年寄り」「早期発見」「放火対策」のようです。消防庁は、下記を重点課題としています。

『住宅防火 いのちを守る 7つのポイント』

<3つの習慣>

- ①寝たばこは絶対やめる
- ②ストーブは燃えやすいものから離れた位置で使用する
- ③ガスこんろなどのそばを離れる時は必ず火を消す

<4つの対策>

- ①逃げ遅れを防ぐために**住宅用火災警報器**を設置する
- ②寝具、衣類及びカーテンからの火災を防ぐために**防火品**を使用する
- ③火災を小さいうちに消すために**住宅用消火器等**を設置する
- ④お年寄りや体の不自由な人を守るため**隣近所の協力体制**をつくる

消火器の基礎知識について、9月は「使い方」10月は「使用上の注意点」、11月は「消火原理」、12月は「消火薬剤」、最終回の今月は、「消火器の構造」についてご説明します。



蓄圧式 (蓄圧された窒素ガスの圧力で、消火薬剤を放射する消火器)

蓄圧式消火器は、放射圧力源として窒素ガスが常時0.7~0.98Mpaで蓄圧されており、レバーを握ることにより、消火薬剤がサイホン管を通じ、ホースより放射されます。弊社が納入させていただいている消火器は、蓄圧式消火器です。

【特長】

①地球・環境にやさしい消火器

従来のCO²ではなく窒素ガスを圧力源にすることで『地球温暖化問題』に対応しています。

②圧力ゲージで簡単チェック

圧力ゲージの指針が緑色ゾーンに入っていれば、いつでも使用可能です。

③万が一、サビていても安心

万が一、容器の腐食等で亀裂などが入った場合、蓄圧しているガスが抜け使用不能になるので破裂事故が起こりません。

④ストップ付き

レバーの握りを緩めると薬剤の放射が止まりますので、効果的な消火活動ができます。



加圧式 (二酸化炭素ボンベなどの圧力源で、消火薬剤を放射する消火器)

レバーを握り、CO²の加圧ガス容器の封板を開封し圧縮ガスをガス導入管により本体容器内下部の逆流防止装置より消火器容器内に充填させ、粉末薬剤を流動加圧します。その圧力により薬剤を本体容器下部の粉上防止封板を破封し、サイホン管を通じてホースより放射させます。

【特長】

従来の消火器の大半は、この方式を利用しております。

この方式ですとレバーを握り、CO²の加圧ガス容器の封板を開封した瞬間に最大の圧力が消火器の容器にかかり、容器がサビなどで劣化している場合、破裂等、二次災害の恐れがあります。

普及版(薬剤量3.0kg)は、ストップ機能はありません。



「寒日」